

第 16 回日本病院脳神経外科学会 会 長 講 演

第 16 回日本病院脳神経外科学会の開会に当たって、会長としてのスピーチをさせていただきます。

【スライド 1・2】

表題は「社会と共に歩む医療、総合的な専門医療の実践—方法としての脳神経外科」としました。このフレーズは、私の医療に臨む姿勢を表しており、「部分を極め全体を収める」、そういった専門医でありたいし、若い医師をそのように育てたい、という意志の表れでもあります。

【スライド 3・4】

開会式で申し上げましたが、病院脳神経外科協会は、平成 9 年 11 月に設立されました。このスライドに示す通り医師とコメディカルスタッフが連携して、国民医療の価値観に立ち、脳神経外科臨牀の社会的位置づけを行うことにその主眼をおいています。

当協会とその学会の名称については、昨日の理事会で、それぞれ「日本臨牀脳神経外科協会」、「日本臨牀脳神経外科学会」とすることに決定しました。大切なことは、名称がどうということよりも、どのような役割を担うかということでありまして、今後一層一般社団法人日本脳神経外科学会と連携して、議論を深め、会を運営してまいりたいと存じます。

【スライド 5・6】

さて、私ごとで恐縮ですが、昭和 52 年 4 月、東京大学を離れて現地の寺岡病院に脳神経外科を開設しました。現地は広島県東部の中山間地域と呼ばれる高齢化率の高い地域に隣接しないしは含まれる地域で、多めに数えても人口 15 万程度の小さな医療圏です。爾来 36 年間地域医療に身を置いて、脳神経外科専門医として総合医療を実践して来ました。臨床医としてのキャリアはこのスライドの左すみに小さく書いておきましたが、手術件数は累計で 1,000 例を優に超えています。術者は 61 歳まで、第 1 助手は 67 歳まで勤めました。ずっと大学から派遣された若い医師たちと一緒に仕事をして来ました。全員私を乗り越えて大きく育って行きましたが、常に私を鼓舞してくれました。

50 歳代後半から府中地区医師会、広島県医師会で仕事をした後、68 歳の時に日本医師会に出向し、地域医療、医療安全、治験、生命倫理などに携わりました。立場上、口幅ったい言いようですが、いつの間にか個人、病院、地域、県、日本、それぞれの視点で医療に臨むようになりました。現在は 78 歳直前の 77 歳で、外来診療、回診、カンファレンスに係り、同時に日本医師会において医療事故調査制度の創設に関する

検討委員会委員長を2度にわたり務め、その報告書を公表しております。

この間、スライドの如く病院は時代と共に変遷し、現在は社会医療法人社団陽正会が寺岡記念病院を中核に2医療機関の経営、1医療機関の指定管理、3つの高齢者施設の経営に携わっています。

【スライド7・8・9・10】

病院の医療は、地域性と時代性の影響を如実に受けており、入院病名の頻度は、肺炎、脳梗塞、心不全、脳出血の順番になっており、高齢化の影響が表れていますし、新規入院患者の年齢や死亡者年齢をみれば、高齢層にシフトしていることが一目瞭然です。この傾向は、救急患者の高齢化にも表れており、「高齢者急性期病院」とでも云うべき様相を呈しています。

【スライド11・12】

これらの現象を踏まえて、このスライドのような課題が見えてきます。その経験を踏まえて、医療の進む方向についての私見を述べますと、

1. 脳神経外科においては、宿命的に病気と障害が盾の両面の関係にあり、人間回復の医療を貫徹するためには、リハビリテーション的ケアが不可欠であります。
2. 全体を見ない専門医は欠陥医師です。医師である以上は全体を診る医師に育て欲しいと思っております。
3. 病院医療は、現在大きな転換期にあります。とりわけ病院医療の在り方の転換が必要であるように思えます。救命・延命を目標においた医療よりも、生活・生命の質 QOL を決定づける多様な要素に関心を置いた医療や新しい健康を達成しようとする包括ケアが求められています。しかし、新しい医科学や社会科学が発展することによって、様相が一変する可能性もあります。本学会を通じて何らかの指針を示すことができると願っています。

以上の私見と社会の変遷から、本第16回病院脳神経外科学会のテーマは「地域社会の高齢化とQOLの変容—脳神経外科診療の役割—」と、しました。

【スライド13】

高齢社会、超高齢社会とここで改めて申すまでもございませんが、現在、福山・府中・尾道市の高齢化率をもう一度お示します。最近では、都市部の高齢化・超高齢化が喧伝されているのはご存じの通りであります。

【スライド14・15】

高齢化が進めば、人々の生活が変わり、文化が変わり、経済が変わり、医療も変わります。すなわち医療の目標が「救命、延命」から「生活を支える医療、延長された

生命を支える医療」に、あるいは医療のパラダイムが救命・延命中心から QOL の改善中心に変わったとされています。

【スライド 16・17】

改めて言うまでもなく、QOL は多義的・多層的 multi vocal, multi layer であり、WHO はこのように定義しております。

また高齢者に対しては、WHOQOL-OLD が示されています。何れにしても、QOL は身体的な評価と生活上の評価と社会的な活動、個人の生きがいの総合されたものですから、社会のコンセンサスを得るにはそれなりの手順と時間が必要です。後期高齢者医療制度を巡っての議論があったのはご承知の通りです。

足元を見ると、とめどなく専門化が進む一方、高齢化と価値観の多様化は細分化した医学医療の統合を必要としています。つまり、専門化と総合化が同時進行しているのが現在の姿でしょう。

医師教育の問題も大きな課題を抱えています。大学の医局制度を壊した世代としては、強い責任感を抱いております。

【スライド 18・19】

これは脳神経外科学会から提供頂いた脳神経外科専門医の年齢構成ですが、やがて 70 歳以上の高齢の専門医が増えることは自然の理（ことわり）です。

このことは、脳神経外科領域だけではなく他の領域においても同じです。専門医は医学医療の全体像の中で各々どのような役割を担えるのか認識すべきです。

同時に高齢専門医の役割を新たな医療システムの中で積極的に位置付ける必要があります。

例えば、21 世紀の新医療システム、つまり包括ケアシステムではケアの場は病院ではなく、往診医療に代表されるようにもっと生活の場に引き寄せられます。専門的知識や技術を持った医師が在宅医療チームに加われば、そのチームの医療力は素晴らしく向上します。

とりわけ、脳卒中・意識障害・高次脳機能障害・身体不自由患者の診療に長けた脳神経外科専門医は重宝がられるに違いありません。若い脳神経外科医は病院医療に高齢脳外医は包括ケアに持てる能力を向ければ 21 世紀型医療に大きな貢献ができます。

また、21 世紀の新たな健康システムにおいては予防医療の必要性が高まります。この分野においても脳卒中の医療や脳ドック医療を通じてリスクファクター対策に明るい脳神経外科医が貢献できるでしょう。次世代の医師の養成にも積極的に係るべきです。

医療の担い手と医師の養成については、新しい医療システムに向けた視点が必要です。とりわけ数の多い看護師については、高齢者医療と総合医療が求められる社会の要請に鑑み、専門性よりも総合性にベクトルを向けた取組みを期待しております。

高齢化の進行は後戻りができません。その中で、「認知症の医療とケア」は最大の

課題の一つです。本学会では地域社会としての対応と脳科学の両面から取り組んでいます。是非熱心なご議論をお願いいたします。

この学会では、「高齢化」と「QOL」と「地域医療」のいわば三題を病院脳神経外科学会の場に寄せて論じて頂こうという趣向で企画いたしました。全体として一つの思想に繋がることを願っています。

医学医療は歴史を踏まえてある時代を反映したものですが、同時に将来に繋がっています。その意味でシンポジウム①「2030年の医療を語る」と特別講演①「地域社会における病院医療の役割」は本学会の導入部分であると同時に未来に向かっての主張であると云えます。

医療機関を経営している者にとっては、経営と医療の質は永遠の課題です。そのための特別講演とシンポジウムも組みました。是非これからの医療経営の参考にしたいと思います。

【スライド20】

医療は複雑系であります。一方に複雑の極みの混沌であり、一方の極に身動きの取れないがちがちの計画・管理があります。自由な発想と行動を伴う自由度が必要です。同時に適度・適正な精度管理が必要でしょう。イリヤ・プリゴジンの「ORDER OUT OF CHAOS 混沌からの秩序」という魅力的な書物の題名を思い浮かべながら講演を終わります。

【スライド21・22】

最後に、本学会は公益財団法人日本脳神経財団との共催であり、21日午後市民公開講座「脳を守る」を企画しました。

脳神経財団へのご協力をお願いいたします。

平成25年7月20日

第16回日本病院脳神経外科学会 会長

社会医療法人社団陽正会寺岡記念病院 理事長

寺岡 暉

第16回

日本病院脳神経外科学会

<http://16jansc.jtbcom.co.jp/>

地域社会の高齢化とQOLの変容
— 脳神経外科診療の役割 —

2013年
会期 7月20日(土)・21日(日)

会場 福山ニューキャッスルホテル
〒720-0066 広島県福山市三之丸町8-16
TEL: 084-922-2121

広島県民文化センターふくやま
〒720-0065 広島県福山市東原町1-21
TEL: 084-921-9200

会長 寺岡 暉
(社会医療法人 社団 陽正会 寺岡記念病院 理事長)

共催 公益財団法人日本脳神経財団

学会事務局
社会医療法人 社団 陽正会 寺岡記念病院
〒720-0065 広島県福山市東原町1-21 4F
TEL: 084752-8150 FAX: 084752-3190

運営事務局
株式会社 JTBコム
〒650-0001 兵庫県神戸市中央区 舞子町1-2-1
TEL: 06-6346-1994 FAX: 06-6346-4103 Email: 16jansc@jtb.com

第16回日本病院脳神経外科学会

第16回 日本病院脳神経外科学会

地域社会の高齢化とQOLの変容 — 脳神経外科診療の役割 —

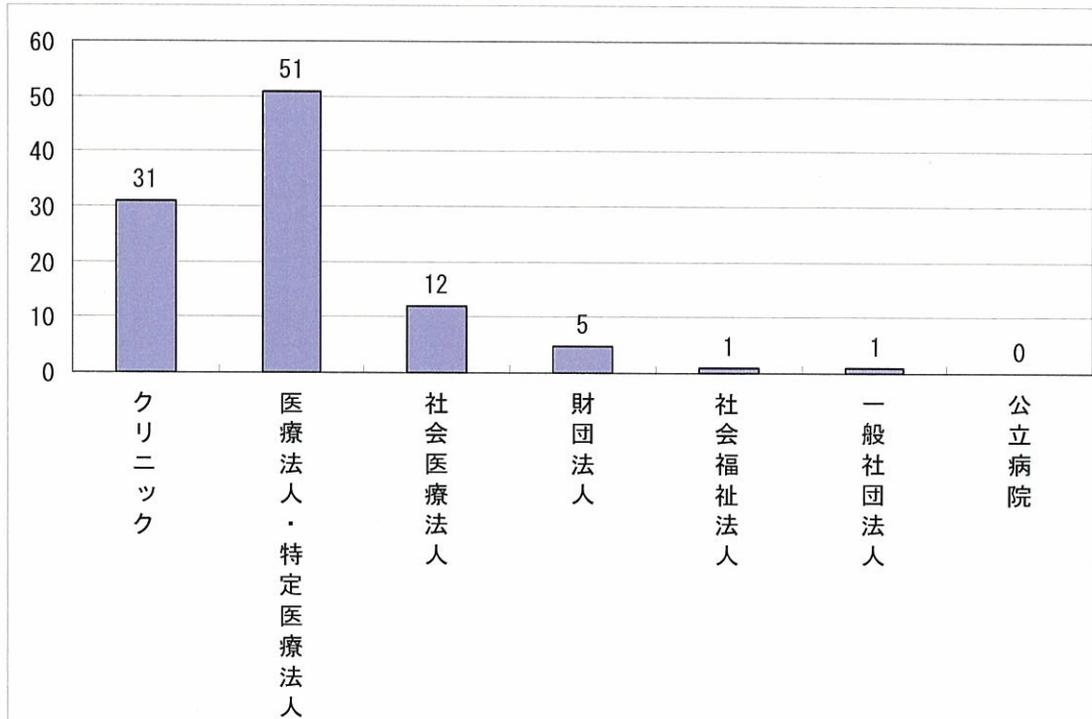
1

社会と共に歩む医療、 総合的な専門医療の実践 — 方法としての脳神経外科 —

第16回日本病院脳神経外科学会会長
社会医療法人社団陽正会 寺岡記念病院 理事長
寺岡 暉

日本病院脳神経外科協会施設会員

計101施設 2013.6



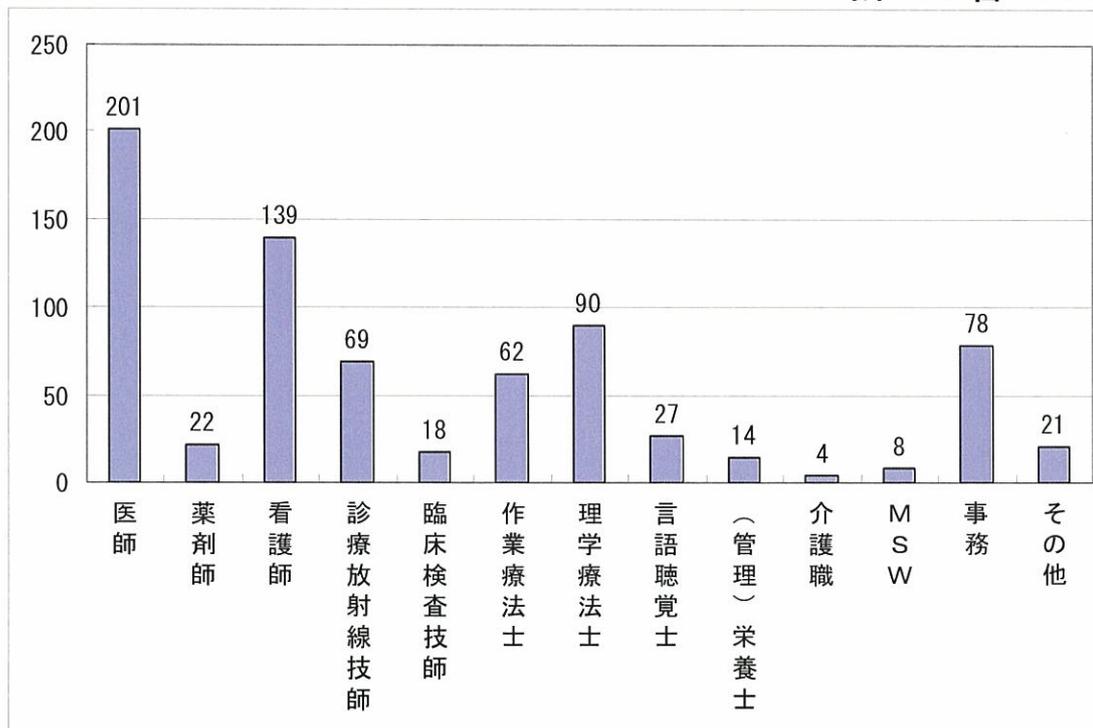
2013/7/20

第16回日本病院脳神経外科学会

3

日本病院脳神経外科協会一般会員

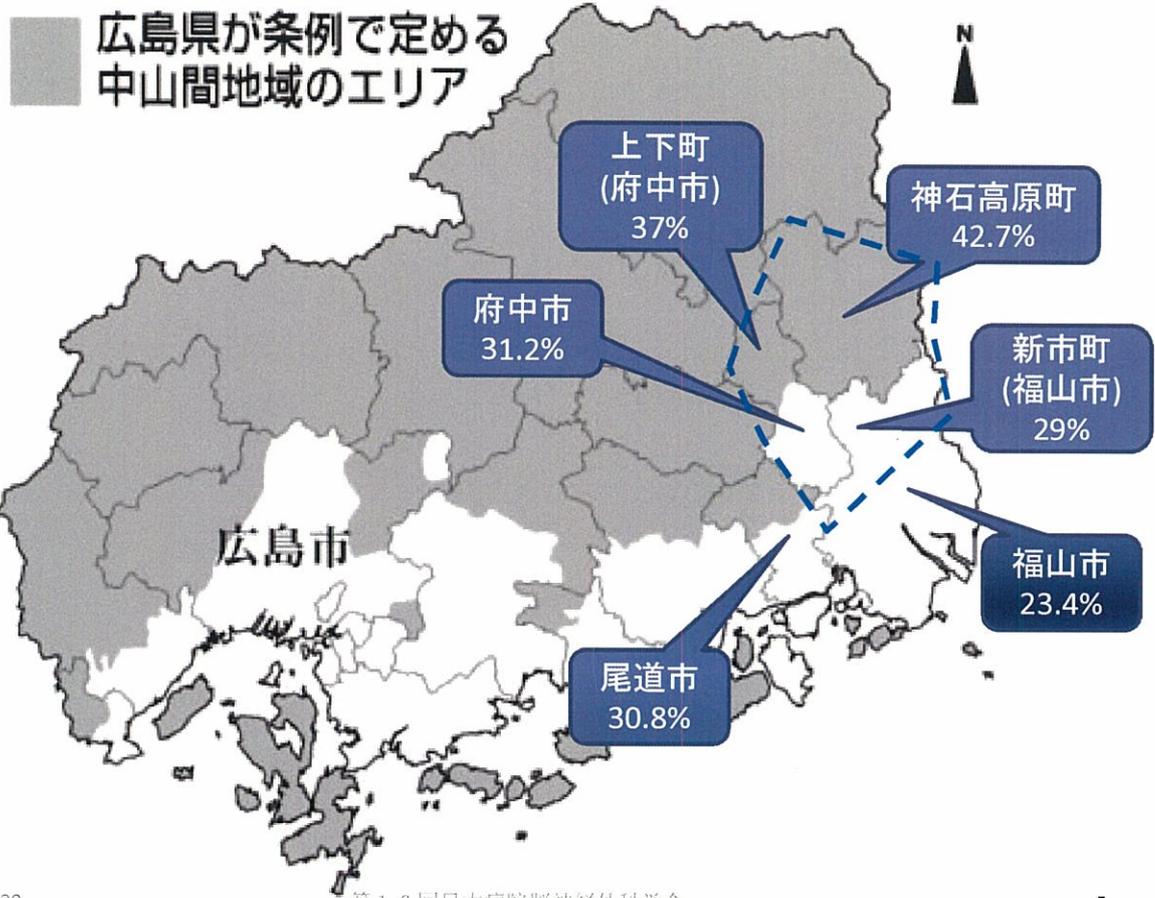
計753名 2013.6



2013/7/20

第16回日本病院脳神経外科学会

4



寺岡記念病院の沿革

1946年(S21) 寺岡医院 有床診療所 (内科)

1951年(S26) 寺岡病院 (内科・外科28床)

1977年(S52) 脳神経外科開設 透析医療・

医療法人化 (184 床) 医療の専門化

1986年(S61)～2004 (H16) **特定医療法人化 (263床)**

61YO An 325 BT 256 病院医療の**多様化と総合化** 高齢者施設併設

67YO An 429 BT 321 訪問看護ステーション 回復期リハビリテーション

An:脳動脈瘤手術 BT:脳腫瘍摘出術

2004 (H16)～ 2009 (H21) 電子カルテ化 **公共性**

社会医療法人化 経営統合 指定管理

入院患者病名の変遷

寺岡記念病院

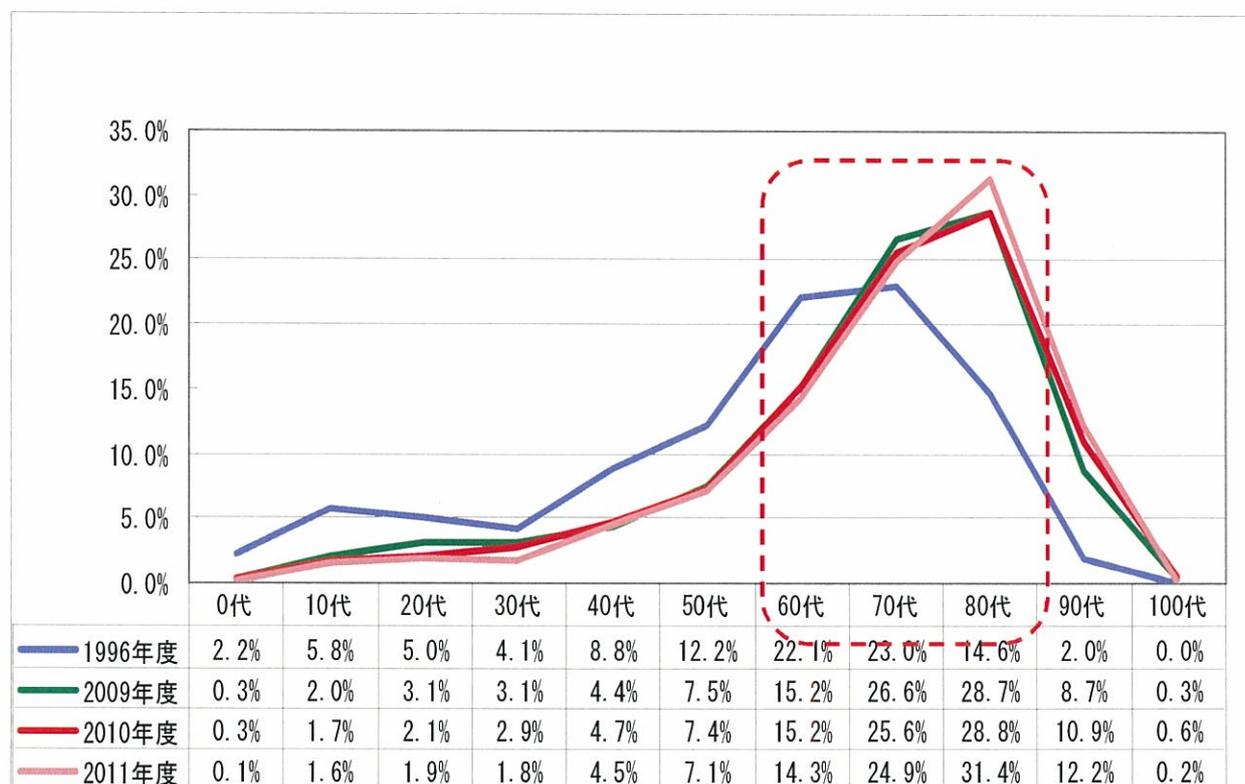
	1985年 (1306人)	2002年 (2246人)	2012年 (2126人)
1	頭部外傷 10.6%	脳梗塞 9.3%	肺炎 11.9%
2	脳梗塞 9.3%	肺炎 5.6%	脳梗塞 9.1%
3	脳出血 3.1%	頭部外傷 5.6%	心不全 3.4%
4	肺炎 2.7%	脳出血 4.1%	脳出血 3.1%

2013/7/20

第16回日本病院脳神経外科学会

7

新規入院患者一年齢構成推移



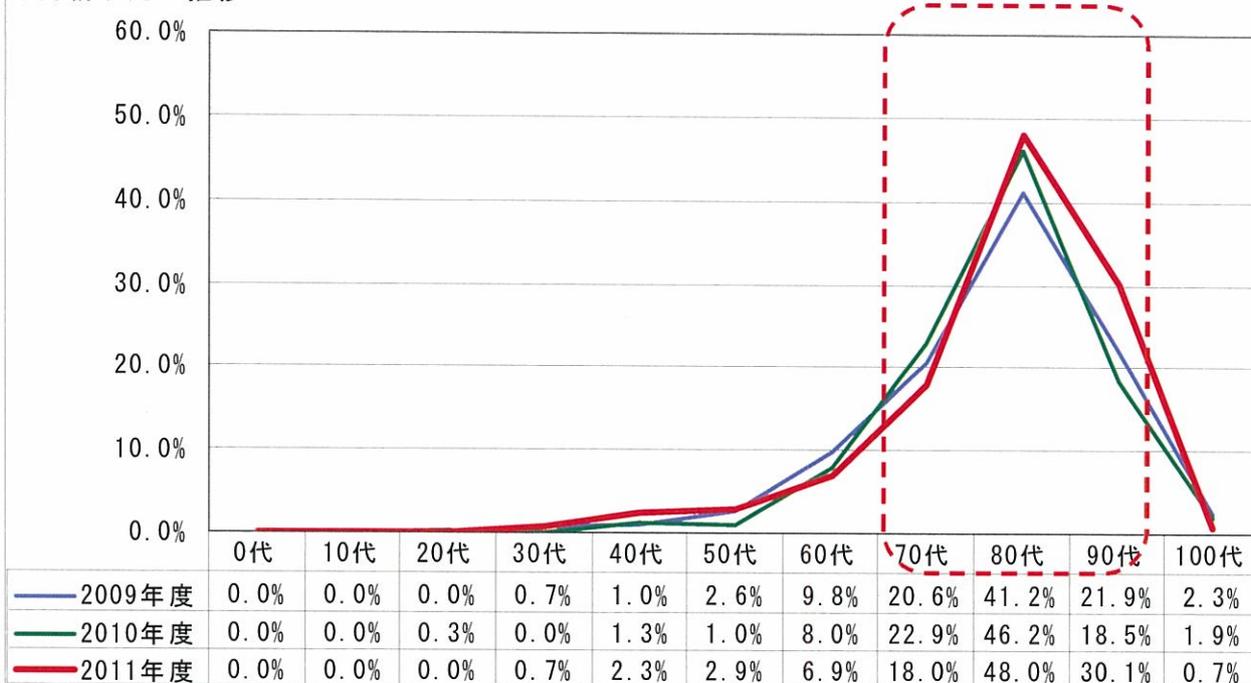
2013/7/20

第16回日本病院脳神経外科学会

8

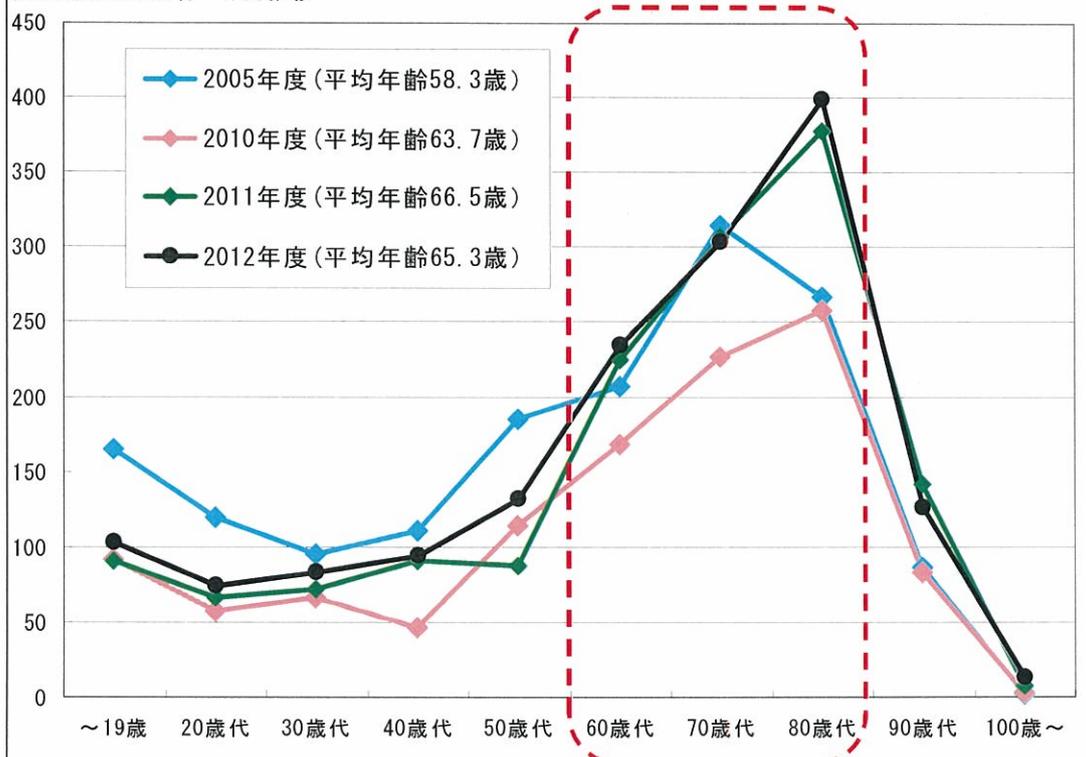
死亡統計 一年齡構成推移

年齢構成比 推移



救急搬送受入患者 一年齡推移

救急搬送受入患者 年齢推移



これからの課題

専門性と総合性の一層の調和

後期高齢者の救命医療のあり方

急性期後のリハビリテーション＝QOL向上

終末期医療のあり方

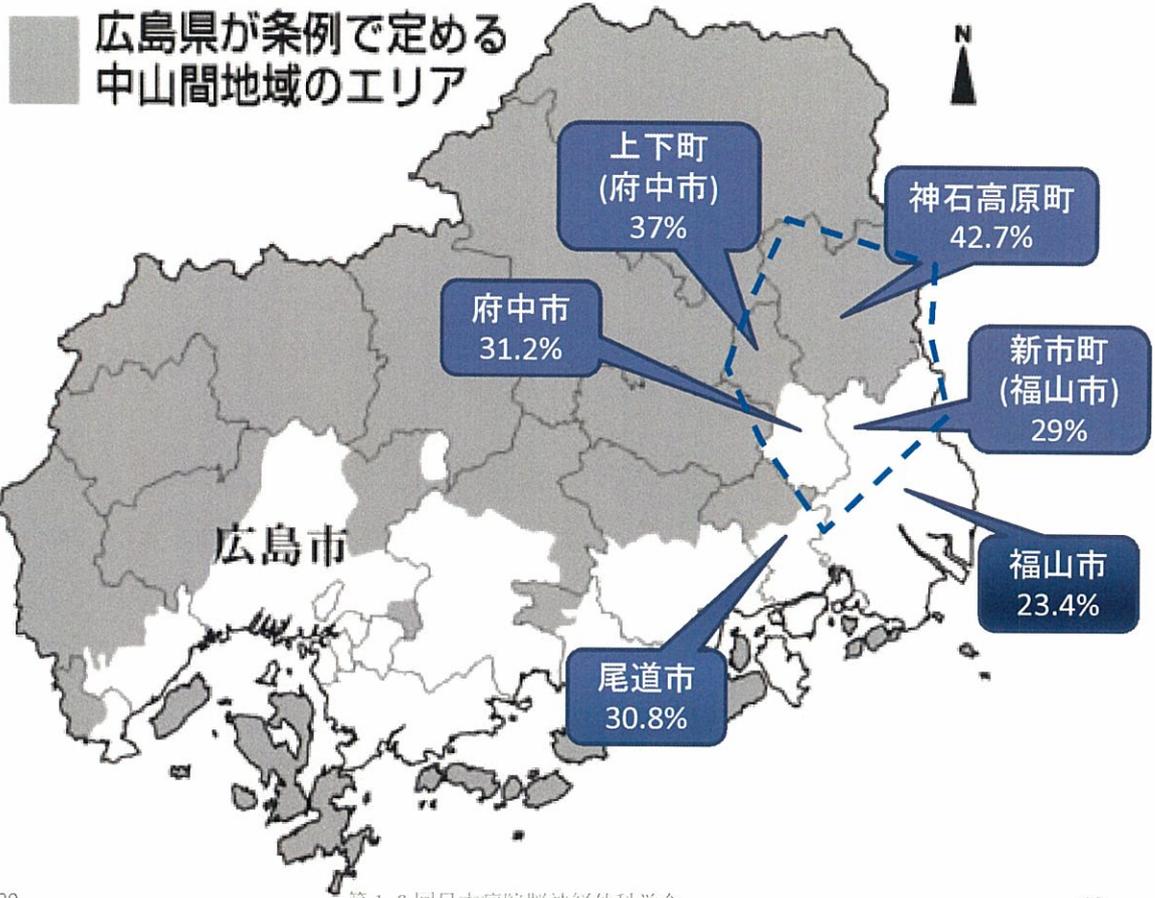
在宅医療・包括医療への支援

医療・病院の質・公共性の精査と向上

多職種のはたらき方・人材教育

医療の進むべき方向(私見)

1. 脳神経外科 人間回復の医療
病気と障害は盾の両面
2. 全体を診ない専門医は欠陥医師である
3. 病院医療の転換期・救命・延命を目標
においた医療⇒QOLの多様な要素に
関心をおいた新しい医療＝包括ケア

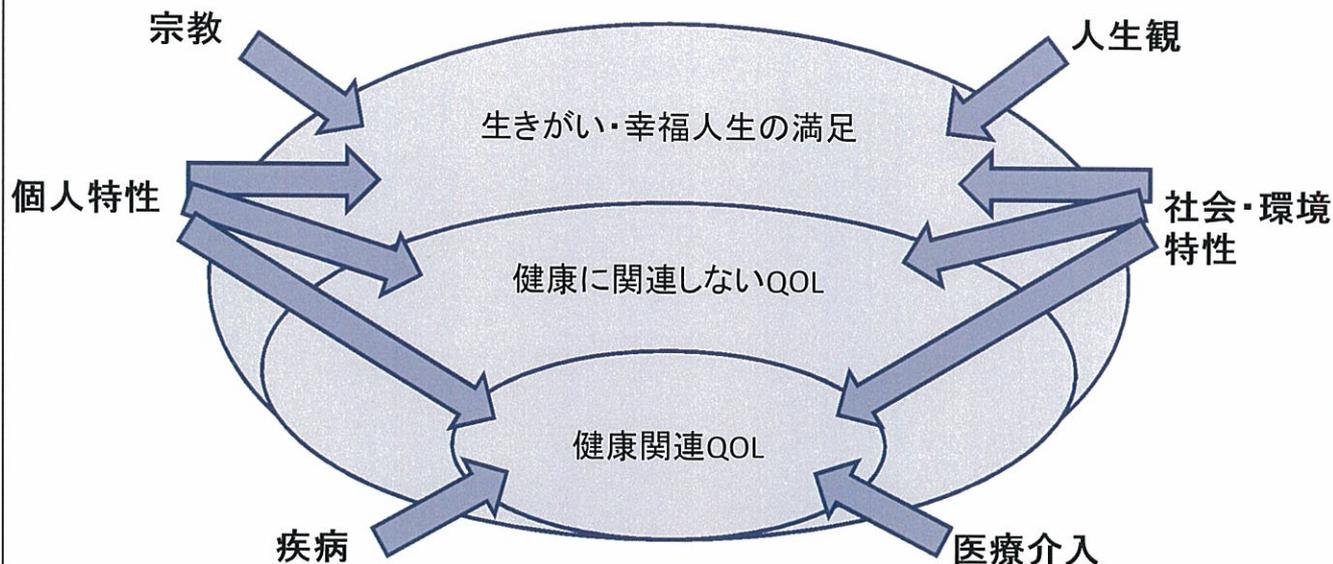


WHOQOL26の構成概念

身体的領域	<input type="checkbox"/> 痛みと不快 <input type="checkbox"/> 医薬品と医療への依存 <input type="checkbox"/> 活力と疲労 <input type="checkbox"/> 移動能力 <input type="checkbox"/> 睡眠と休養 <input type="checkbox"/> 日常生活動作 <input type="checkbox"/> 仕事の能力
心理的領域	<input type="checkbox"/> 自己評価 <input type="checkbox"/> スピリチュアリティ(精神性) <input type="checkbox"/> 思考、学習、記憶、集中力 <input type="checkbox"/> ボディイメージ <input type="checkbox"/> 自己評価 <input type="checkbox"/> 否定的感情
社会的関係	<input type="checkbox"/> 人間関係 <input type="checkbox"/> 性的活動 <input type="checkbox"/> 社会的支援
環境	<input type="checkbox"/> 自由、安全と治安 <input type="checkbox"/> 生活圏の環境 <input type="checkbox"/> 金銭関係 <input type="checkbox"/> 新しい情報獲得の機会 <input type="checkbox"/> 余暇活動の参加と機会 <input type="checkbox"/> 居住環境 <input type="checkbox"/> 健康と社会的ケア <input type="checkbox"/> 交通手段
全体	<input type="checkbox"/> 生活の質全体 <input type="checkbox"/> 健康状態への満足全体

資料: 田崎美弥子ほか監修「WHOQOL26」(2005)

健康関連QOLの概念図



健康関連QOL (quality of life : 生活の質) とは、「疾患や治療が、患者の主観的健康感 (メンタルヘルス, 活力, 痛み, など) や、毎日行っている仕事, 家事, 社会活動にどのようなインパクトを与えているか, これを定量化したもの」である。

(福原俊一. 臨床のためのQOL評価と疫学. 日本腰痛会誌2002; 8(1): 31-7.)

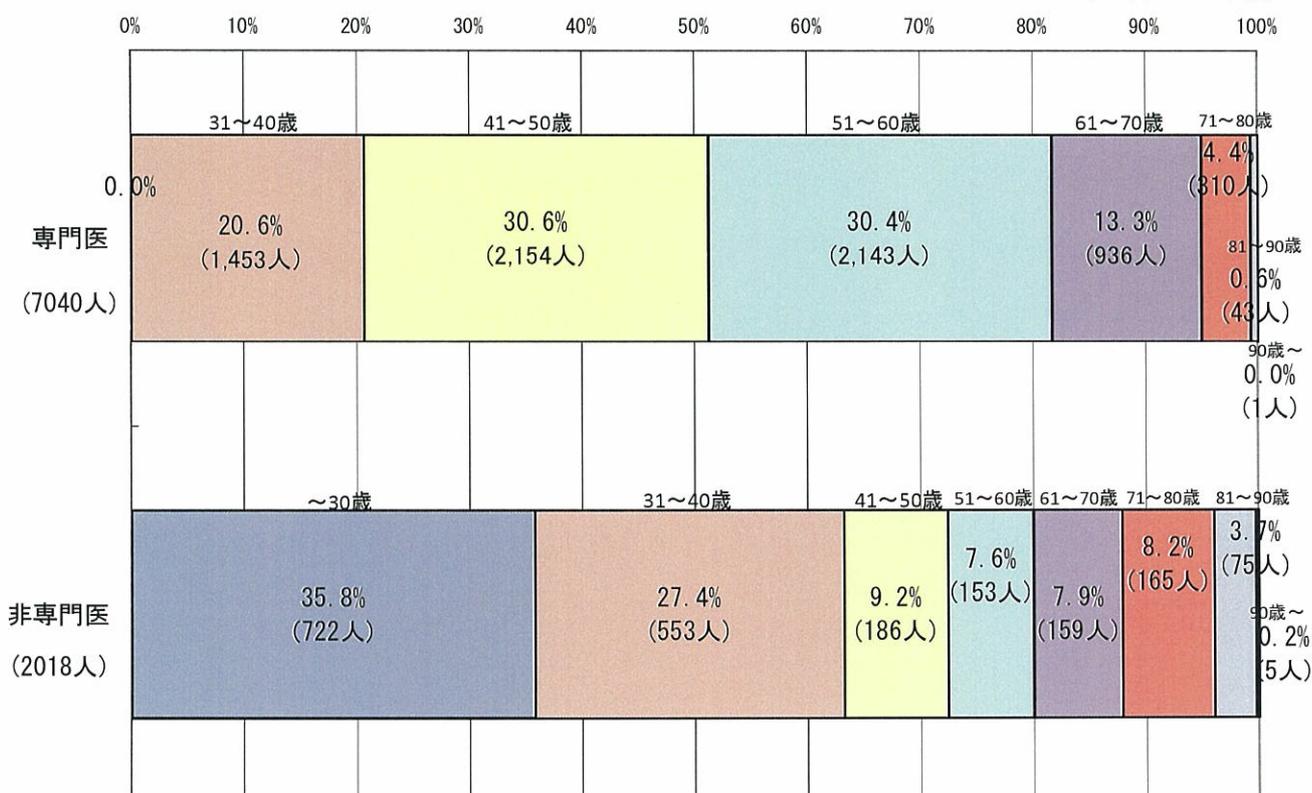
The WHO defines QOL as 'an individual's perception of their position in life in the context of the culture and value systems in which they live, and in relation to their goals, expectations, standards and concerns'

Concepts and contents of the facets included in the WHOQOL-OLD module

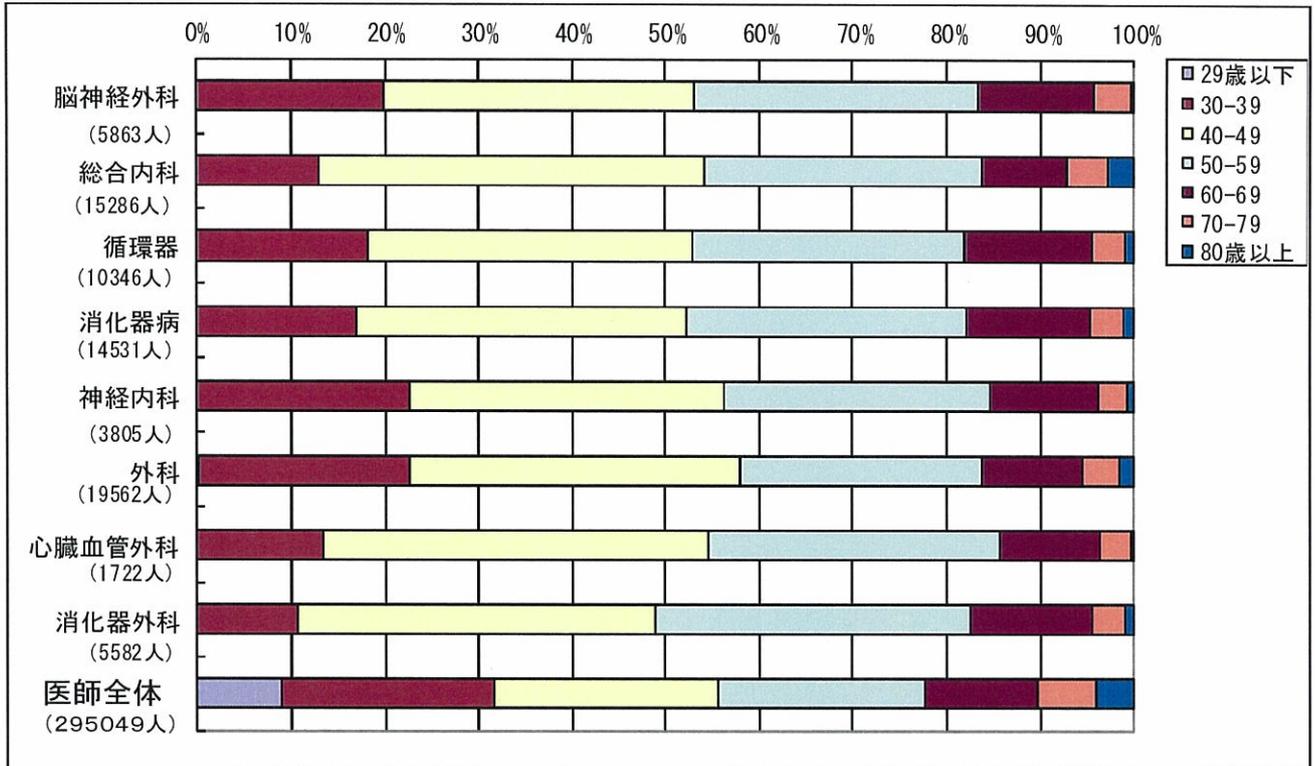
Facet	Abbr.	Concept / content
Sensory Abilities	SAB	Sensory functioning, impact of loss of sensory abilities on quality of life
Autonomy	AUT	Independence in old age; being able or free to live autonomously and to take own decisions
Past, Present and Future Activities	PPF	Satisfaction about achievements in life and at things to look forward to
Social Participation	SOP	Participation in activities of daily living, especially in the community
Death and Dying	DAD	Concerns, worries and fears about death and dying
Intimacy	INT	Being able to have personal and intimate relationships

一般社団法人 日本脳神経外科学会 会員年齢構成

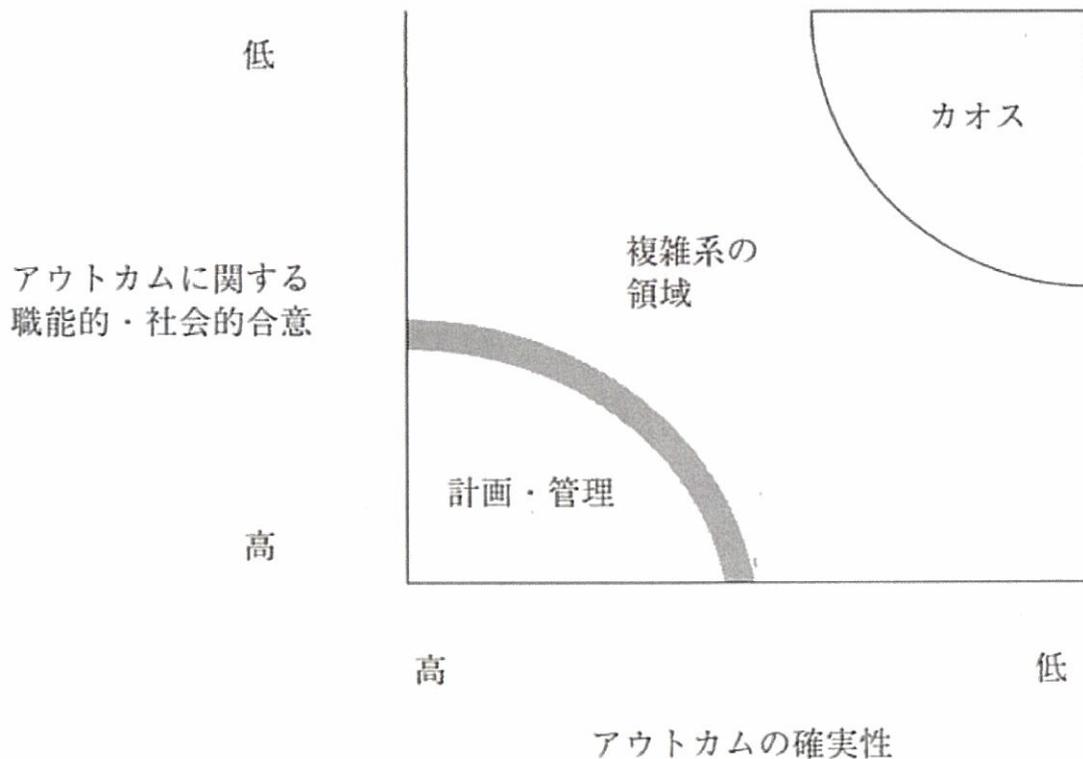
2013年7月1日時点



専門医年齢構成



医療は複雑系の領域 ステイシーのダイアグラム



第38回 公益財団法人 日本脳神経財団講演会
第16回 日本病院脳神経外科学会市民公開講座

挨拶 高倉 公明 (公益財団法人日本脳神経財団 理事長 / 東京大学 名誉教授)
寺岡 暉 (第16回日本病院脳神経外科学会 会長)
総司会 斉藤 延人 (東京大学医学部大学院医学系研究科 脳神経医学専攻 教授)

- 1 「脳を守る薬と医療機器への期待」
近藤 達也 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 理事長)
- 2 「脳腫瘍、脳卒中から脳を守るには」
栗栖 薫 (広島大学 脳神経外科 教授)
- 3 「スポーツ外傷から脳を守る」
島 克司 (防衛医科大学校 名誉教授)

「脳を守る」

参加費
無料
定員 530名

主催：公益財団法人 日本脳神経財団 第16回日本病院脳神経外科学会

日時 2013年7月21日(日) 14:00~15:50
場所 広島県民文化センターふくやま 大ホール

お問合せ先 第16回日本病院脳神経外科学会 市民公開講座 事務局
社会医療法人社団海正会 寺岡記念病院内
〒729-3103 広島県福山市新町新町37番地
TEL: 0847-52-3150 FAX: 0847-52-3170
学会HP <http://16jansc.jp/>
<http://www.jtboom.co.jp/>



2013/7/20

第16回日本病院脳神経外科学会

21

JAPAN BRAIN FOUNDATION



目的

脳卒中に代表される脳・神経の病気には、さまざまな事故による頭のけが、脳梗塞、認知症、脳腫瘍、てんかん、パーキンソン氏病などたくさんあります。
このような脳の病気の多くは死亡率も高く、たとえ命が助かっても手足が動かなくなったり、言語が不自由になったりして、社会の一員として生活することが困難になります。
日本脳神経財団は、「脳を守ろう」をスローガンに、脳の病気の予防・治療のための研究を助け、啓発活動をすすめ、そして将来、一人でも多くの方がこうした病気から救われるようわが国の脳神経科学の役割を果たすことを目的としています。

沿革

この財団は、1981年12月15日厚生省（現 厚生労働省）の認可を受け、翌年2月23日には特定公益増進法人として認定されて本格的な活動に入りました。さらに平成23年11月1日、内閣府より公益性が認められ、公益財団法人として認定されました。新たな財団の形態にはなりますが、公益事業を更に深化させることで、お役にたてると考えております。
本財団では、脳神経疾患に関する研究に関係が深い学会、研究会、学術会議等への助成金の交付は重点事業の一つとなっております。

働き

研究助成

脳神経の病気の原因を明らかにし、その予防や最良の治療法を開発するためには、広く新しい研究を推し進める必要があります。日本脳神経財団では、全国規模で多くの研究助成金を出しています。国際交流として開発途上国よりの研修生に対する援助、海外講師を招いての学会講演等の援助も行っています。



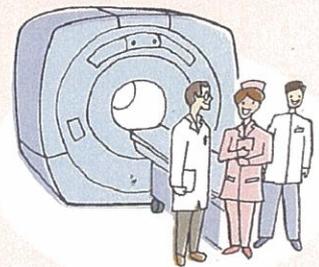
学術集会助成

新しい医療情報を広く普及し、国際間の交流を促進するために、国内外にわたる学術集会を助成しています。



教育事業

脳・神経関係の専門病院の充実をはかるため、脳神経外科専門医や看護師の教育研修会を定期的に行っています。



社会事業

わたくしたちの大切な脳を守るためには、国民一人一人が病気に対する正しい知識を持たねばなりません。そのために、パンフレットや財団ニュースを発行したり、各地において一般向けの講演会を行っています。



2013/7/20

第16回日本病院脳神経外科学会

22